

J.モラ:6月の歌

ブエノスアイレス出身のバンドネオン奏者ホアキン・モラのロマンチックな甘い旋律が心を蕩かす。原曲はウルグアイの映画監督・脚本家イグナチオ・ドミンゲス・リエラの詩による歌。

マレー飛鳥:ある夕べに

当デュオのためのマレー飛鳥によるオリジナル作品。アルゼンチン音楽を基調としながらも、即興的な情熱がほとばしる瞬間もあり、さまざまなカタストロフを経験してきたこの時代の音が盛り込まれた夜想曲になっている。

G.d.ヒューストの作品

アルゼンチン・コルドバ生まれのヘラルド・ディ・ヒューストは、ジャズからラテン、フュージョンまで、ジャンルを越境した音楽活動を展開するピアニスト・作曲家。マレー飛鳥とは、20年以上続く多国籍グループ「ガイア・クアトロ」でともに演奏している。「対比」はガイア・クアトロのアルバム「Udin」(2008)に収録された、大人の哀愁が漂う曲。「思い出」は当デュオのための委嘱作品。どこか懐かしいメロディを感じさせる美しい曲。

ピアソラの作品

「タンティ・アンニ・プリマ」は「昔々」という意味で、もとはマルチェロ・マストロヤンニ主演の映画『エンリコ 4 世』のために書かれた。甘美な旋律がどこか映像を感じさせる。「リベルタンゴ」は 1974 年イタリアに渡ったピアソラの第1作で、日本におけるピアソラ・ブームの火付け役となった曲。

J.S.バッハ:G 線上のアリア

バッハの《管弦楽組曲 第 3 番》の第 2 曲「エール」を、ドイツのヴァイオリンの名手アウグスト・ヴィルヘルミ(1845-1908)がピアノ伴奏付きのヴァイオリン独奏曲に編曲したもの。タイトルはヴァイオリンの最低音の弦(G 線)のみで演奏できることに由来する。

D.スキッシ:酔いどれ変奏曲

ディエゴ・スキッシは、ピアソラ以降、アルゼンチンのジャズ・タンゴ界を代表する作曲家・ピアニスト。本曲は、ファン・カルロス・コビアンが 1922 年に書いたタンゴ屈指の名曲「酔いどれたち」の断片をちりばめた斬新な変奏曲。当デュオのために作曲された委嘱作品。

中島ノブユキ:遮られた時間

中島ノブユキは、映画やドラマ音楽に至るまで幅広い活動をしている作曲家・ピアニスト。本曲は当デュオのために作曲された委嘱作品。未だ世界のあちこちで戦禍に見舞われている人々を想い、その平和を祈るために書かれたという。

挟間美帆:春を讃え、そして踊れ

挟間美帆は世界で活躍するグラミー賞ノミネートのジャズ作曲家。本曲は、当デュオのために作曲された委嘱作品で、歓びと躍動、生命の息吹が感じられる。

北村 聡:フェスティーボ

当デュオのために書かれた、北村聡によるオリジナル作品。混迷の時代だからこそ、すべ

てを受け入れ、ありのままの世界を寿ぐような祝祭的な曲。

マレー飛鳥:スタイル

当デュオのために書かれた、マレー飛鳥によるオリジナル作品。3.11 への鎮魂。優しい旋律が、真摯な祈りの向こうに、遥かな希望を感じさせる。